

令和2年度 授業改善推進プラン<1年国語>

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・大田区学習効果測定においての全体の目標値は約7ポイント上回っているが、話の内容を聞き取ることに関しては、5ポイント下回っているという結果になった。
- ・「漢字を読む」の項目については、目標値より9ポイント上回っている。一方、「漢字を書く」項目については目標値は上回っているが、「漢字を読む」項目より低い結果となっている。
- ・「作文」の項目についても目標値を10ポイント近く上回っている。

国語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目で目標値を上回っており、前年度の1年生よりも良い結果となっている。しかし「話の内容を正確に聞き取る」項目は下回り、聞き取ることはできるが、正確性が不足していると考えられる。 ・「漢字の読み・書き」は目標値を上回っているが、「書く」の項目が下回り、定着できていないようである。そのため、継続的に学習していく必要がある。 ・「作文」については全ての項目で目標値を上回り、書く力が備わっているように思える。今後も書く作業を増やし、力を伸ばしていけたらと考える。 ・その他の観点についても概ね下回ることがなく、結果が出ているので、授業の中で作品(文学作品・説明文等)を取り組む中で、書く、とらえるということに気を配り取り組ませたい。
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む力」は目標値を12ポイント上回っている。今後も授業の中で、読むことに苦手意識をもたせないように授業を展開していくことが必要である。 ・「話す・聞く」に関しては目標値と大きく差がないため、人の話を聞く、発表などの時間を作り、この1年で伸ばしていけたらと考える。 ・「書く能力」、「言語についての知識・理解・技能」も目標値を上回っており、授業の中で、書く時間、漢字などの語句をきちんと取り組み指導していきたい。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・「漢字の読み書き」に関しては、きちんと正しい漢字を書かせ、書き間違い、読み間違いがないよう確認をしていく。漢字テストなども実施し、語彙力を高めていく。
- ・「書く力」をより伸ばしていくために、時間を区切って書くなど、制限を設け、取り組ませしていく。
- ・「読む力」については、人物の心情の読み取りや場面の展開など、明確に項目を掲げ、作品をしっかり読み取れるように授業を展開していく。
説明文では、筆者の考え、事実などを読み取り、理解を深めさせる。
- ・「話す・聞く」では発表を行ったり、他者の意見を参考にしながら自分の考えを書く時間を作り、各個人での活動を増やしていく。

令和2年度 授業改善推進プラン<2年国語>

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・教科として目標値を7.4ポイント上回り、前年度と同じであった。基礎問題は前年を0.3ポイント下回ったが、活用問題において1.1ポイント上回った。基礎知識の応用に力を入れる必要があると考えられる。
- ・「言語についての知識・理解・技能」は前年度0.3ポイント下回り、特に漢字の書きの学習が必要である。
- ・「話す・聞く能力」については目標値を7ポイント上回っているが、授業内での発表や発表の聞き取りなどの言語活動に更に充実させたい。
- ・「書く能力」については目標値を9.6ポイント上回り、前年を0.1ポイント下回った。継続的に「書く学習」を行うことによりさらに力をつけさせたい。

国語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を読む」については、画数の多い漢字が苦手であると思われる。 ・「漢字を書く」については、目標値を1.3ポイント下回り、漢字の訓読みの書き取りの正答率が低い。 ・「文法・語句に関する事項」については、目標値を8.7ポイント上回った。文節、単語の理解が不十分なので、復習が必要と思われる。 ・「新聞記事を書く」は0.2ポイント下回り、文章の内容を正確にとらえ、伝えたい事柄を明確にして書く力の育成のために、「書く」学習活動を継続して行う。
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「関心・意欲・態度」は目標値を8.2ポイント、前年度より0.3ポイント上回っている。 ・「書く能力」は目標値を7.7ポイント上回り、前年と同じである。特に「自分のとった立場の理由を書くことができる」力の育成が必要である。 ・「話す・聞く能力」は目標値を7.7ポイント上回り、前年度と同じである。「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞きとる」「司会者の工夫を聞き取る」力の育成のための練習が大切だと考えられる。 ・「読む能力」は目標値11.1ポイント、前年度3ポイント上回った。「文章の展開に即して内容をとらえる」「文章の展開に即して要旨をとらえる」力の育成のために、要点や要旨をまとめる学習活動を増やす。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・「話す・聞く能力」を更に伸ばす。
 - 「音読」「スピーチ」ができるよう、発表原稿の作成、推敲の機会をもち、言語活動を充実させる。授業や他人の発表を注意深く聞き、メモを取る習慣をつけさせる。
- ・「漢字の読み・書きの能力」を定着させる。
 - 新出漢字音訓の練習、家庭学習習慣の定着と復習により、定着をはかる。同時に、部首や熟語を意識させる。
- ・「文章を書く機会を増やす」
 - 単元ごとに自分の考えを書いたり、登場人物の心情の読み取りを600字程度の文章にまとめる習慣をつけ、日常生活とのつながりを意識させる。格言、ことわざ、四字熟語、慣用句などを使うことを習慣化させる。
- ・「文章の読み方」を定着させる
 - 説明文、文学作品それぞれの読み方や観点・用語を理解し、内容を的確にとらえる力を付けさせる。全体の構造をとらえると同時に一つ一つの言葉を丁寧に読み取らせる。

令和2年度 授業改善推進プラン<3年国語>

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・教科として目標値を10.9ポイント、前年度を0.1ポイント上回った。基礎問題は前年を上回ったが、活用問題において5ポイント下回った。基礎知識の応用に力を入れる必要があると考えられる。
- ・「漢字の読み・書き」は継続的に力を入れさせる。
- ・「話す・聞く能力」については目標値を上回ったが、前年度を下回っており、授業内での発表や発表の聞き取りを通して、言語活動に慣れさせたい。
- ・「書く能力」については目標値を11.6ポイント、前年を0.4ポイント上回ったが、継続的に「書く学習」を行うことによりさらに力をつけさせたい。

国語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての内容において目標値を上回った。 ・「漢字を読む」については、訓読みの漢字が苦手であると思われる。 ・「漢字を書く」については、漢字の熟語の書き取りの正答率が低い。 ・「文法・語句に関する事項」については、用言の活用形についてと同音異義語についての理解をさらに深めるため、復習が必要と思われる。 ・「作文」に関しては、すべての項目において目標値を上回っており、書くことに抵抗がなく、それぞれが問題に対してしっかり取り組めたことがうかがえる。
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「関心・意欲・態度」は目標値を10.9ポイント上回っているが、前年度よりは0.7ポイント下降している。 ・「書く能力」は目標値を11.6ポイント前年を0.4ポイント上回っている。「書いた手紙を読み返し適切な表現に書き直す」練習が必要と考えられる。 ・「話す・聞く能力」は目標値を8.6ポイント上回っているが、前年度を4.4ポイント下回った。「話の内容を正確に聞き取ったうえで、反論したり資料を使って自分の考えを話したりする」練習が大切だと考えられる。 ・「読む能力」は10.6ポイント、「知識・理解・技能」は11.7ポイント目標値を上回った。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・「話す・聞く能力」を更に伸ばす。
 - 「音読」「スピーチ」「暗誦」などを行い、授業中に発表の機会を多くもつことで国語は言語教科であることを意識させる。他人の発表は注意深く聞いて評価するようにさせる。音読により正確さを求める。
- ・「漢字の読み・書きの能力」を定着させる。
 - 毎時間、小学校の漢字をノートに書いて復習し、定着をはかる。同時に、部首や熟語を意識させる。
- ・「文章を書く機会を増やす」
 - 授業の内容に従って、自分の考えを書いたり、登場人物について読み取ったりして、文章を書くことになれさせる。社会や日常生活とのつながりを意識させる。一文は短く、主語述語修飾語の係り受けを意識して書くようにさせる。
- ・「文章の読み方」を定着させる
 - 説明文、文学作品それぞれの読み方や観点・用語を理解し、内容を的確につかむ力を付けさせる。全体の構造をとらえると同時に一つ一つの言葉を丁寧に読み取らせる。

